

# 2006年3月期 決算説明会



**TOYOTA**

**トヨタ自動車株式会社**  
**2006年5月10日**

# 将来予測・インサイダー取引について

本資料には、当社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。

- ◆日本、北アメリカ、ヨーロッパおよびトヨタが営業活動を行っているその他の国の自動車市場に影響を与える経済情勢、市場の需要ならびにそれらにおける競争的環境
  - ◆為替相場の変動、特に日本円、米ドル、ユーロ、豪ドル及びイギリス・ポンドの相場変動
  - ◆経営陣が設定したレベル、またはタイミングどおりに生産効率および向上と設備投資を実施するトヨタの能力
  - ◆トヨタが営業活動を行っている市場内における法律、規制及び政府政策の変更で、特に貿易、環境保全、自動車排ガス、燃費効率、安全性の面などにおいてトヨタの自動車事業に影響を与えるもの、または将来の訴訟やその他の法的手続きを含めたトヨタのその他の営業活動に影響を与える法律、規制及び政府政策の変更など
  - ◆トヨタが営業活動を行っている市場内における政治的な不安定さ
  - ◆タイムリーに新商品を開発し、それらが市場で受け入れられるようにするトヨタの能力
  - ◆トヨタが材料、部品、資材などを調達し、自社製品を製造、流通、販売する主な市場における、燃料供給の不足、交通機能のマヒ、ストライキ、作業の中断、または労働力確保が中継されたり、困難である状況
- 以上の不確実性および変動要素全般に関する追加情報については、当社の有価証券報告書または米国証券取引委員会に提出された年次報告書(フォーム20-F)をご参照ください。

インサイダー取引に関するご注意:

企業から直接、未公開の重要事実の伝達を受けた投資家(第一次情報受領者)は、当該情報が「公表」される前に株式売買等を行うことが禁じられています(証券取引法166条)。同法施行令により、二以上の報道機関に対して企業が当該情報を公開してから12時間が経過した時点、または、証券取引所に通知しかつ内閣府令で定める電磁的方法(TDnetの適時開示情報閲覧サービスおよびED-NET公開WEBサイト)により掲載された時点をもって「公表」されたものとみなされます。

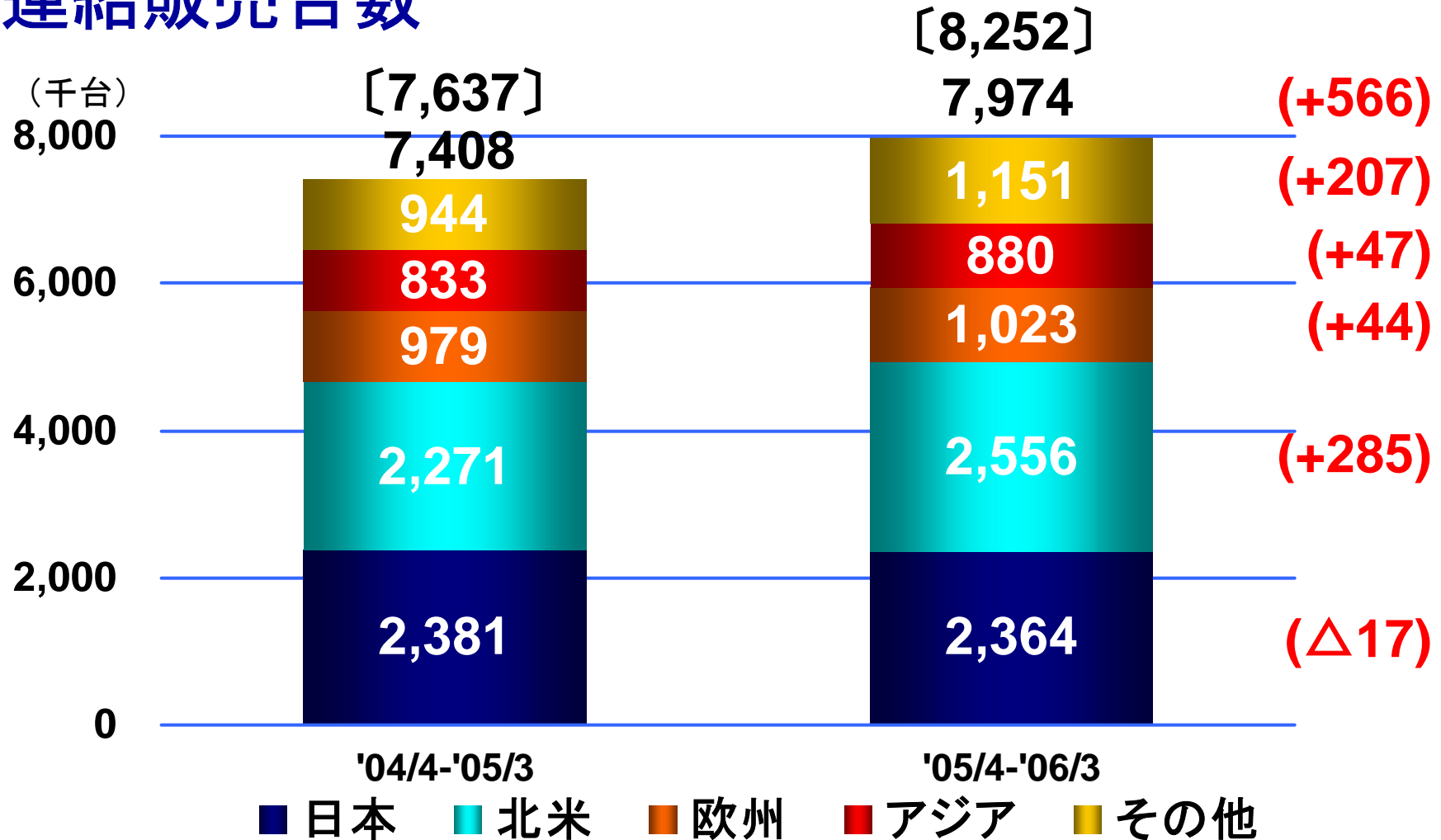
**TOYOTA**

取締役社長

渡辺 捷昭

# 06/3期 決算サマリー

## 連結販売台数



**TOYOTA**

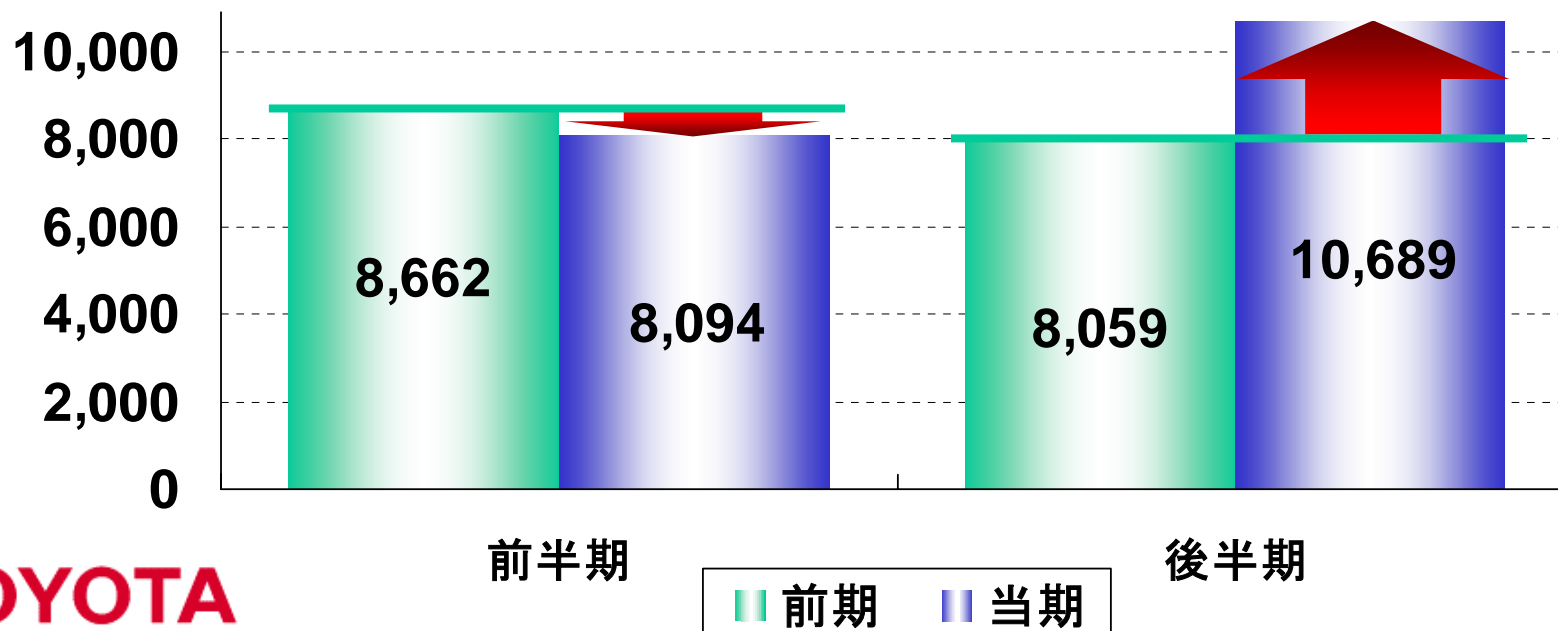
[ ]内はトヨタ、ダイハツ、日野の総小売販売台数

( )内は'04/4-'05/3実績からの増減

# 06/3期 決算サマリー

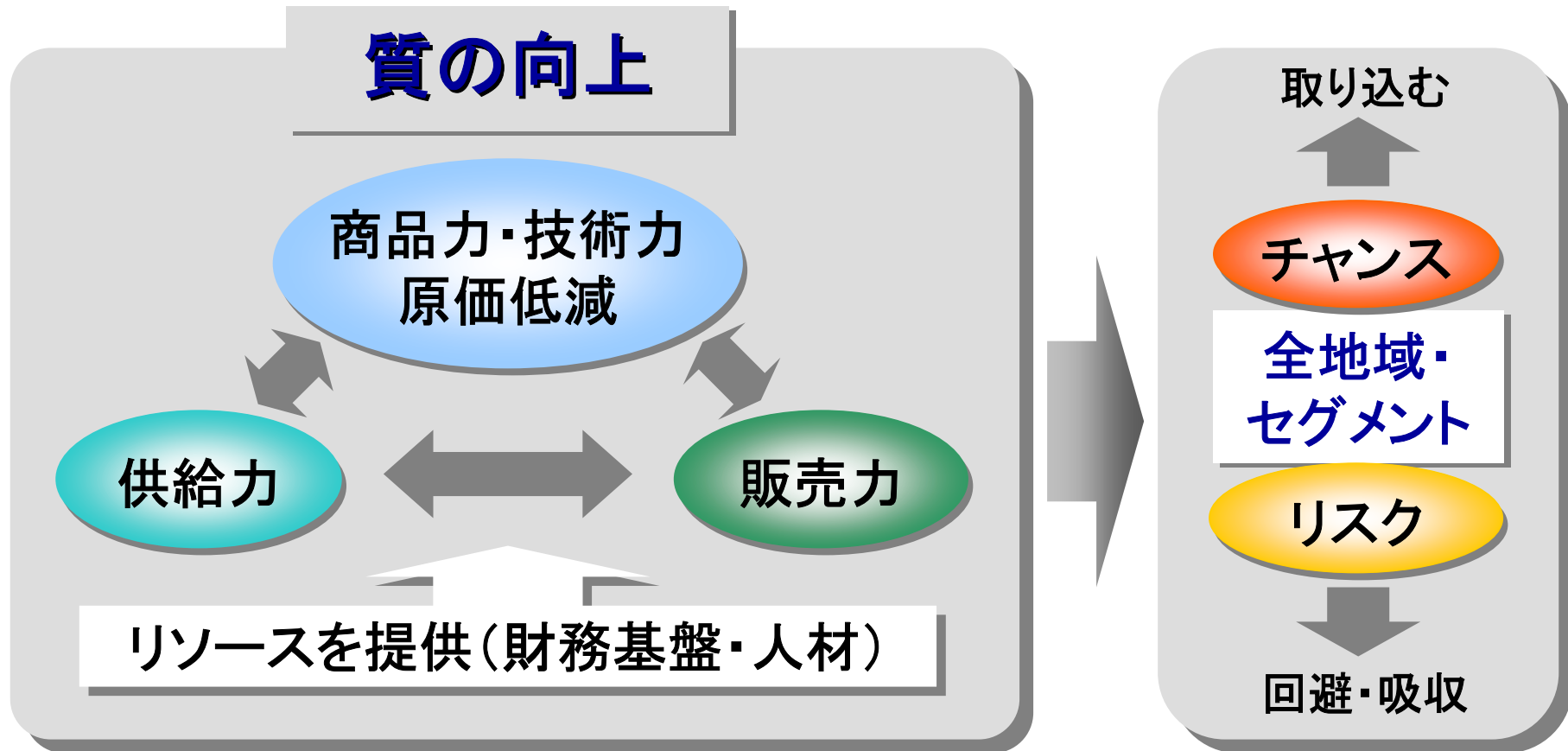
■	連結売上高：	21兆 369億円	前期比 (13.4%増)
■	連結営業利益：	1兆8,783億円	(12.3%増)
■	連結当期純利益：	1兆3,721億円	(17.2%増)

## ■ 半期別営業利益の推移 (単位:億円)



# トヨタが目指す成長

## 長期安定的な成長



TOYOTA

# 06/3期

## 主な取り組み

- ✓ 商品力・技術力による市場成長の取り込み
- ✓ ハイブリッド市場の創造と育成
- ✓ 国内生産能力の増強
- ✓ グローバルプレミアム市場でのブランド構築

## ＜06.3期＞ 商品力・技術力 市場ニーズを捉え、お客様の信頼を獲得

- 高い商品力により、グローバルに販売台数を拡大  
(商品力 = 品質、性能、燃費、安全装備、環境対応、価格、デザイン…)

### ＜主な新型車＞



アバロン(米)



ヴィッツ・ヤリス(日・米・欧)



フォーチュナー(アジア・その他)



タコマ(米)



RAV4(日・米・欧)



マークX・レイツ(日・中)

販売費を効率的に活用し、新型車を中心に台数拡大  
収益拡大に貢献

**TOYOTA**



**＜06.3期＞ 商品力・技術力**  
**ハイブリッド(HV)システムの性能向上と原価低減の推進**

HV販売台数 26.3万台(前期比+12.0万台) ⇒ 累計60万台達成

➔ **市場リーダーとして、年間100万台の販売を目指す**  
(2010年代の早い時期に達成予定)



'97~

**認知期**

THS\*

'03~

**拡販期**

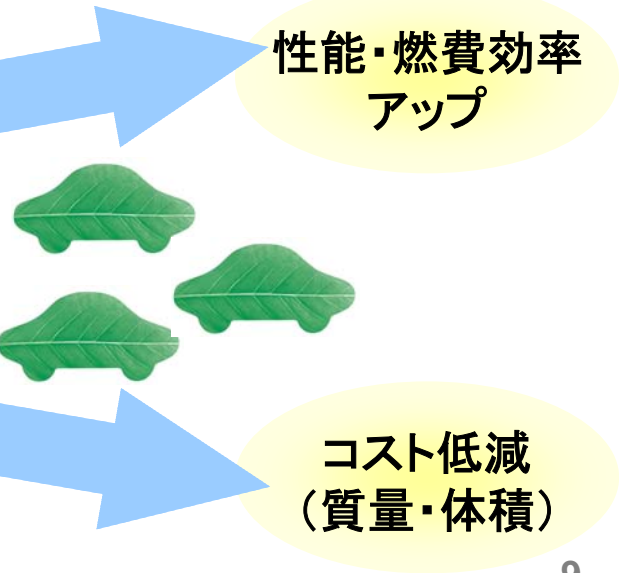
THS II

**普及期**

世界初の量販  
HVシステム投入

エコ+パワー  
コスト半減

多車種展開  
更なるコスト削減



**TOYOTA**







\*THS: Toyota Hybrid System

# ＜06.3期＞ 供給力

## 国内能力増強：グローバルな需要拡大に機動的に対応

■ 基本方針：需要のある場所で生産（＝海外での能力増強）



	04年	05年	06年	07年	08年
日本		 九州 20万台  岩手 10万台			
海外	 メキシコ 3万台 トルコ 能増 +5万台 フランス 能増 +3万台 天津第1 能増 +3万台	 TPCA 10万台 イギリス 能増 +6.5万台 天津第2 10万台	 テキサス 20万台 フランス 能増 +3万台 タイ 能増 +9万台 広州 10万台	SIA 生産委託 10万台 南アフリカ 能増 +9万台 タイ第3 10万台 メキシコ 能増 +2万台 ロシア 5万台 天津第3 20万台	 カナダ 15万台

**＜06.3期＞ 販売力**  
**グローバルプレミアムブランド「レクサス」の構築**

## 「グローバルレクサス元年」と位置付け、ブランド構築

### ■ グローバル販売 41.1万台/年（前期比+7.2万台）

➤ **日本：新規導入**

06.3期 1.7万台（7ヶ月）  
短期間でブランドイメージを確立  
142店（05/8）→151店（06/3）

➤ **欧州：再強化**

06.3期 3.9万台  
専用店舗数の拡大  
72店（05/3）→93店（06/3）

➤ **中国：基盤整備**

06.3期 0.6万台  
店舗網の整備  
10店（06/3）

➤ **北米：No.1ラグジュアリーブランドの地位を確立**

圧倒的な販売台数を堅持 06.3期 32.2万台（前期比+3.4万台）

**TOYOTA**



**2006年、フラッグシップ車、  
新型LSを投入**

# 07/3期 主な活動

- ✓ グローバルコアモデルの展開
- ✓ 革新的な原価低減活動の推進
- ✓ 海外新工場の効率的な立ち上げ

## ＜07.3期＞ 商品力・技術力 高い商品力を持つ「グローバルコアモデル」の展開

■グローバルコアモデル 連結販売台数の34%を占める (06.3期販売実績ベース)



**IMV**  
年間53.7万台販売  
04年～生産開始



**ヴィッツ・ヤリス**  
年間43.2万台販売  
05年～モデルチェンジ



**カムリ**  
年間53.6万台販売  
06年～モデルチェンジ



**カローラ**  
年間120.7万台販売  
(台数は06.3期グローバル販売実績)

### 開発コンセプト「グローバルベスト・ローカルベスト」

グローバル共通のプラットフォーム・基幹部品の開発

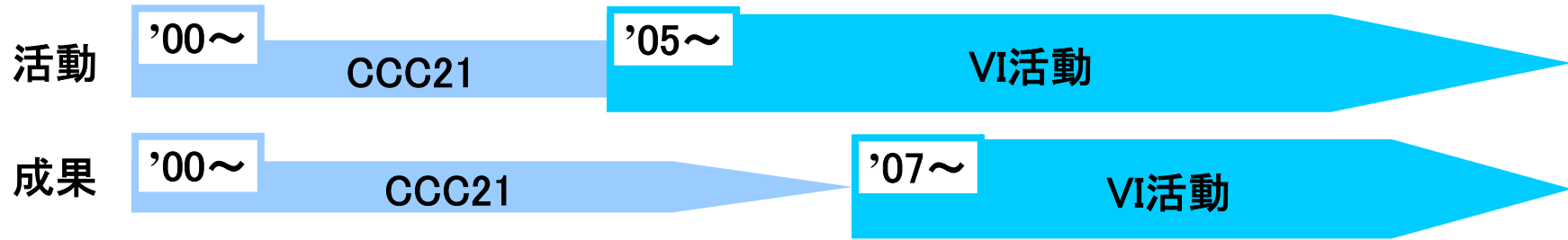
ローカルニーズを的確に捉えるデザインやアッパーボデー開発

- ✓ グローバルでの効率的な開発
- ✓ お客様のニーズに対応した魅力的な商品作り

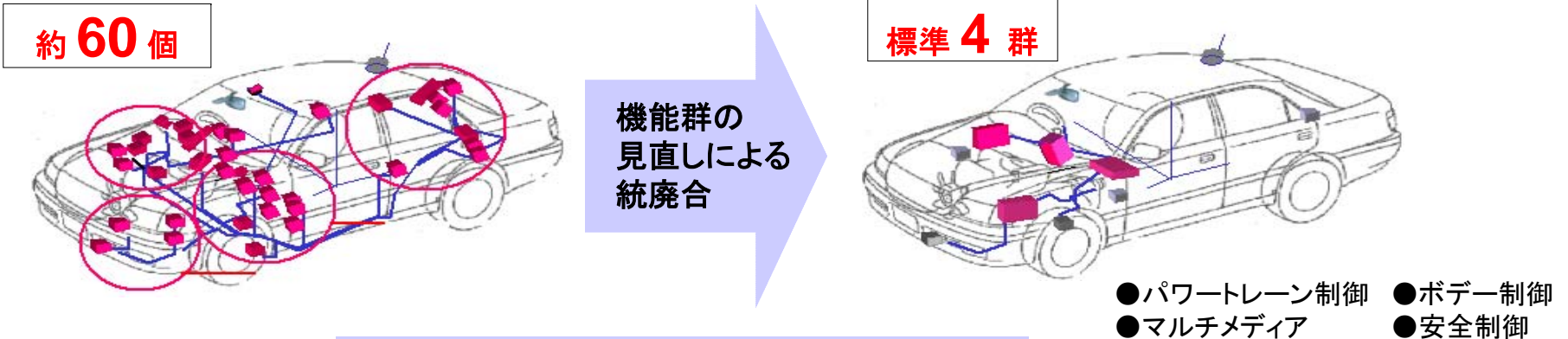
**TOYOTA**

**<07.3期> 原価低減**  
**革新的な原価低減活動(=VI活動)の推進**

- ・ CCC21を上回るスピード・規模・低減効果額を目指す



■ ECUシステムにおける原価低減 → 複数のECUを一体統合化



**設計思想に踏み込んだ  
システム単位の原価低減活動**



\*ECU: Electronic Control Unit

# ＜07.3期＞ 供給力 海外新工場の効率的な立ち上げ

07.3期 海外生産計画(\*1) 前期比 32.9万台増加 \*1: トヨタ、レクサス

効率的な生産ラインのグローバル展開

中国広州工場(5月)  
【カムリ…年間10万台】



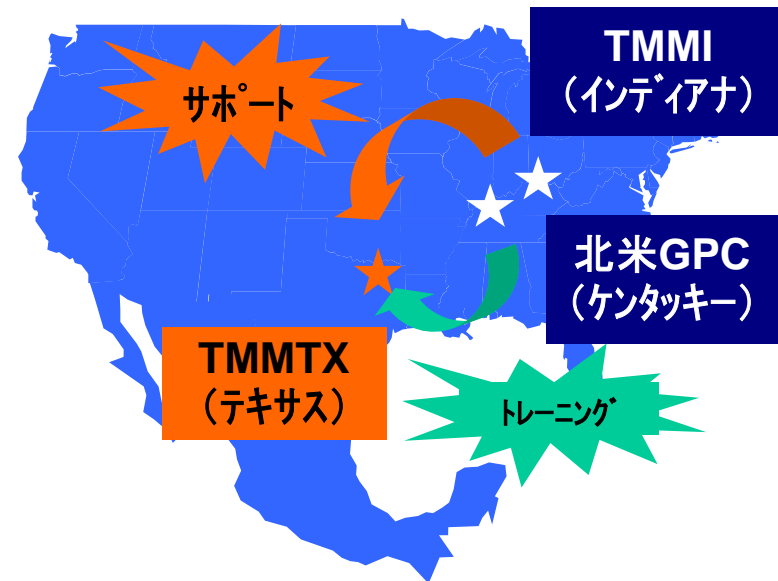
最新GBL(\*2)による高品質・フル生産

**TOYOTA**

\*2: GBL: Global new Body Line

海外オペレーションの自律化

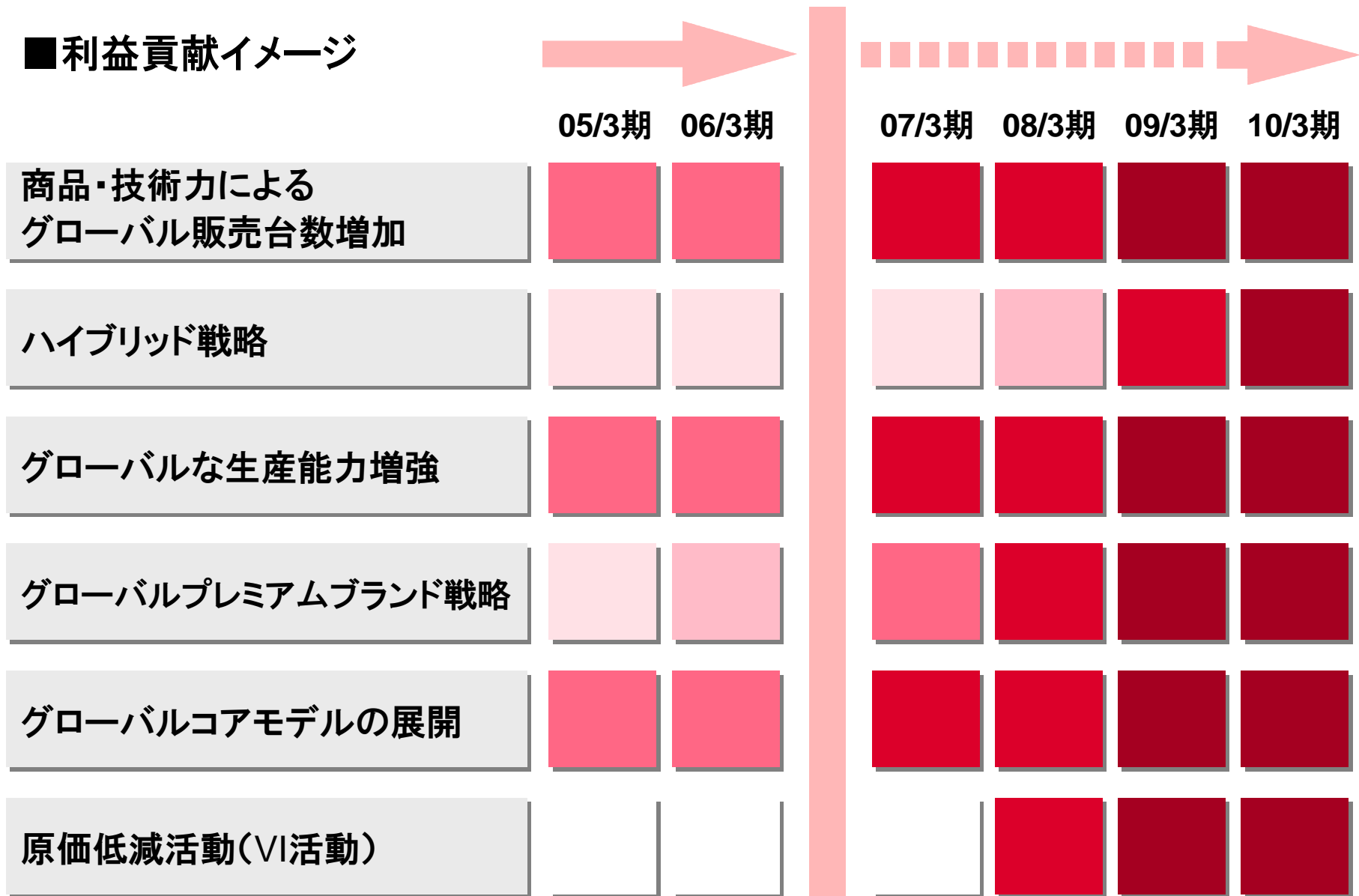
米国テキサス工場(10月)  
【タンドラ…年間20万台】



北米域内で生産準備を完結

# 成長を収益につなげる取り組み

## ■利益貢献イメージ

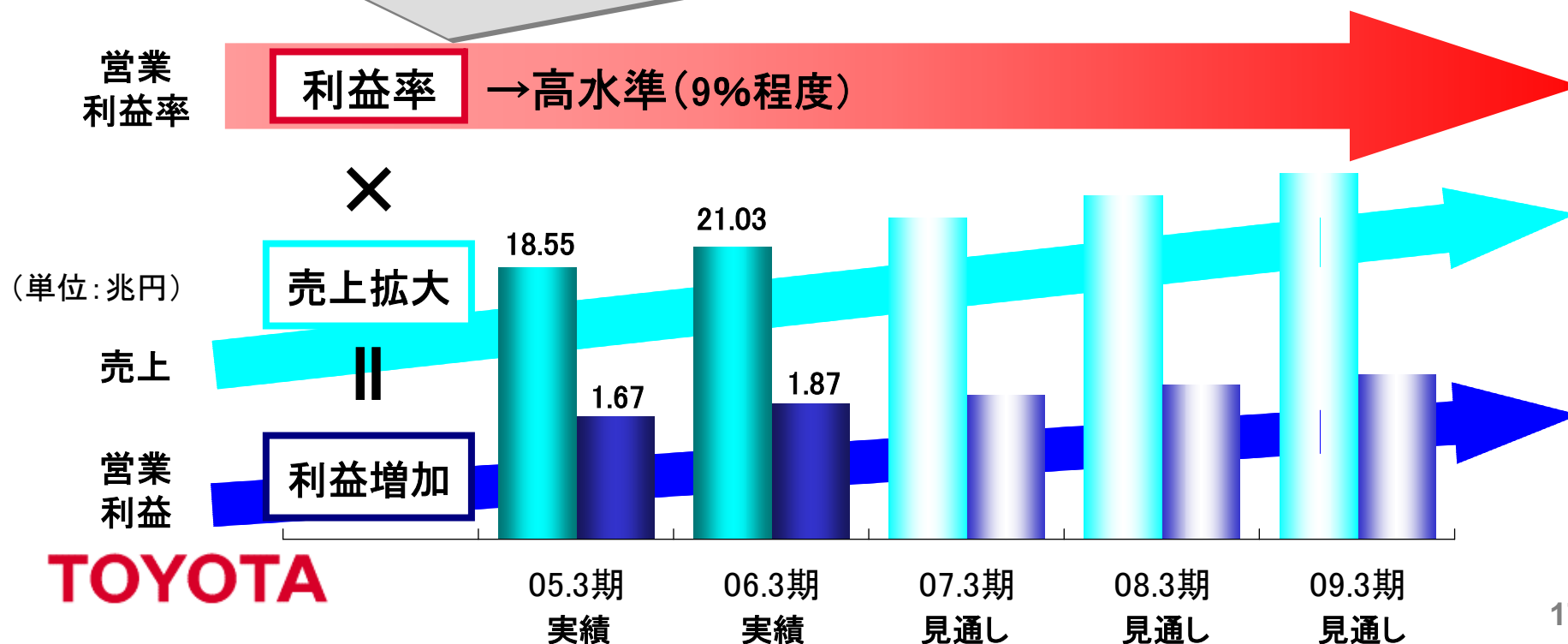




# 成長と効率の両立

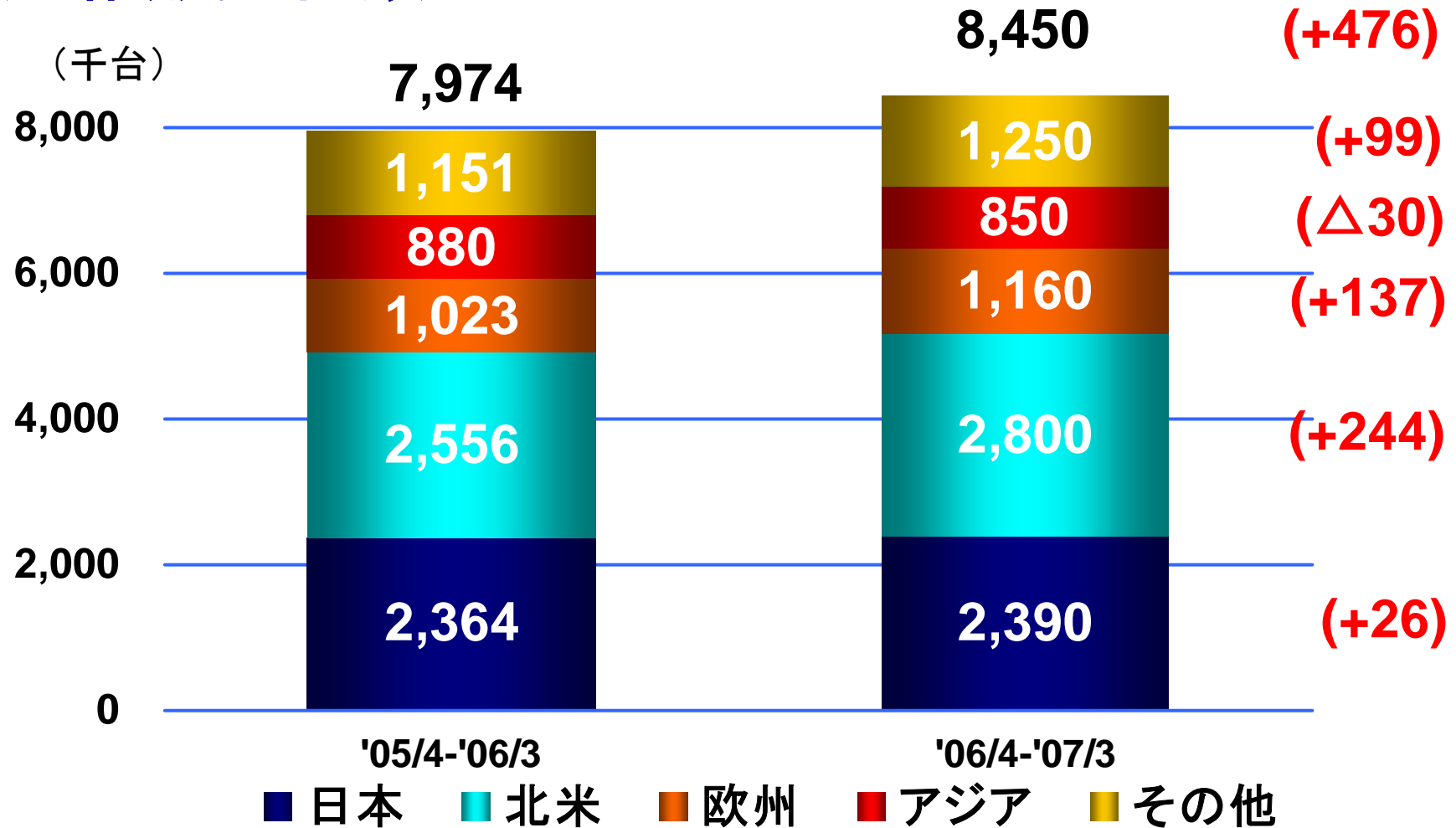
台数・売上拡大 × 高水準の利益率の維持

- 台数と利益のバランスの取れた営業施策
- VI活動やグローバルな固定費管理による原価改善



# 07/3期 業績見通し

## 連結販売台数



**TOYOTA**

( )内は'05/4-'06/3実績からの増減

# 07/3期 業績見通し

◆ 連結売上高： **22兆3,000億円**

---

◆ 連結営業利益： **1兆9,000億円**

---

◆ 連結当期純利益： **1兆3,100億円**

---

為替レート

110円/ドル  
135円/ユーロ

**TOYOTA**

# 株主還元



## 配当

連結配当性向30%を目指す



## 自己株買い

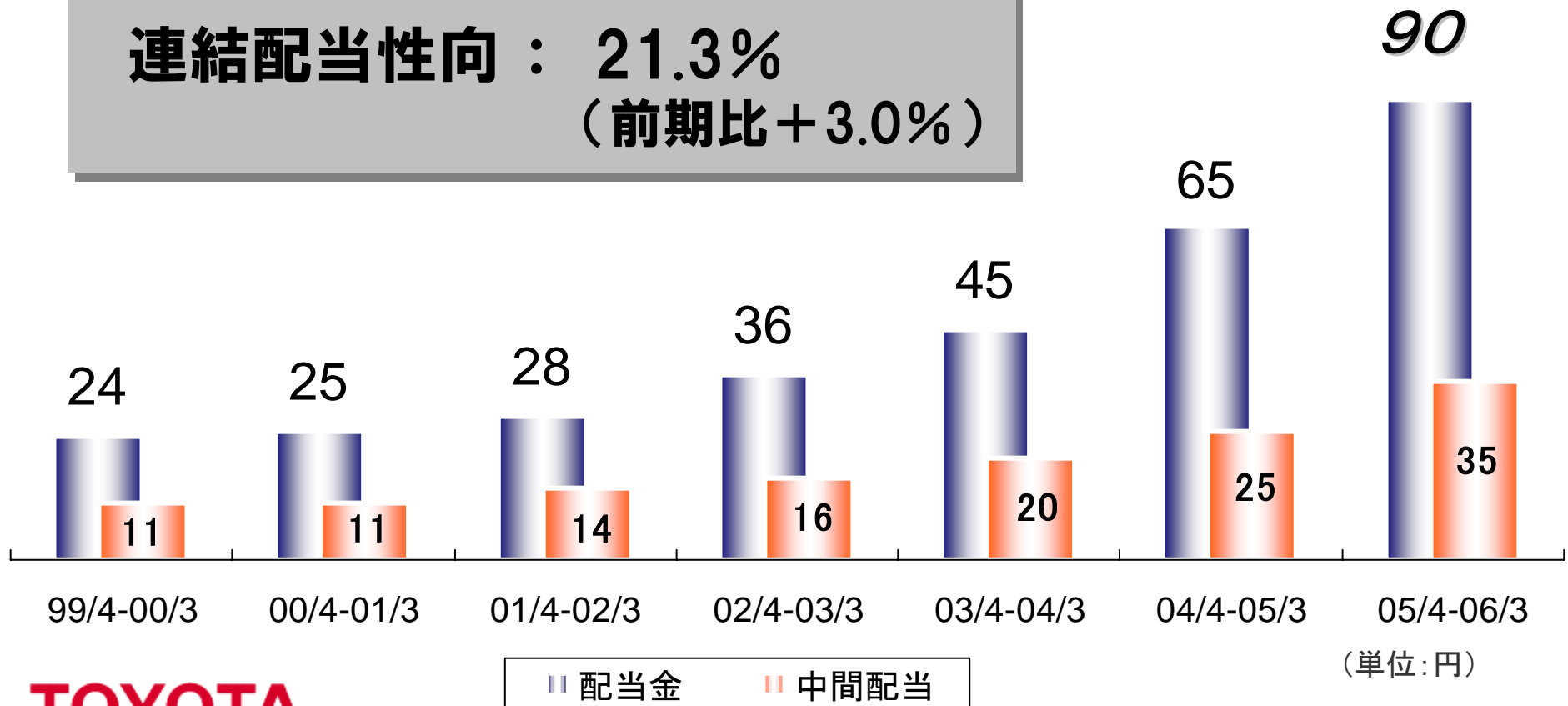
資本効率(ROE)の向上  
需給状況への機動的な対応

# 株主還元

配当：1株につき90円（前期比25円増配）

配当総額：2,921億円

連結配当性向：21.3%  
（前期比+3.0%）



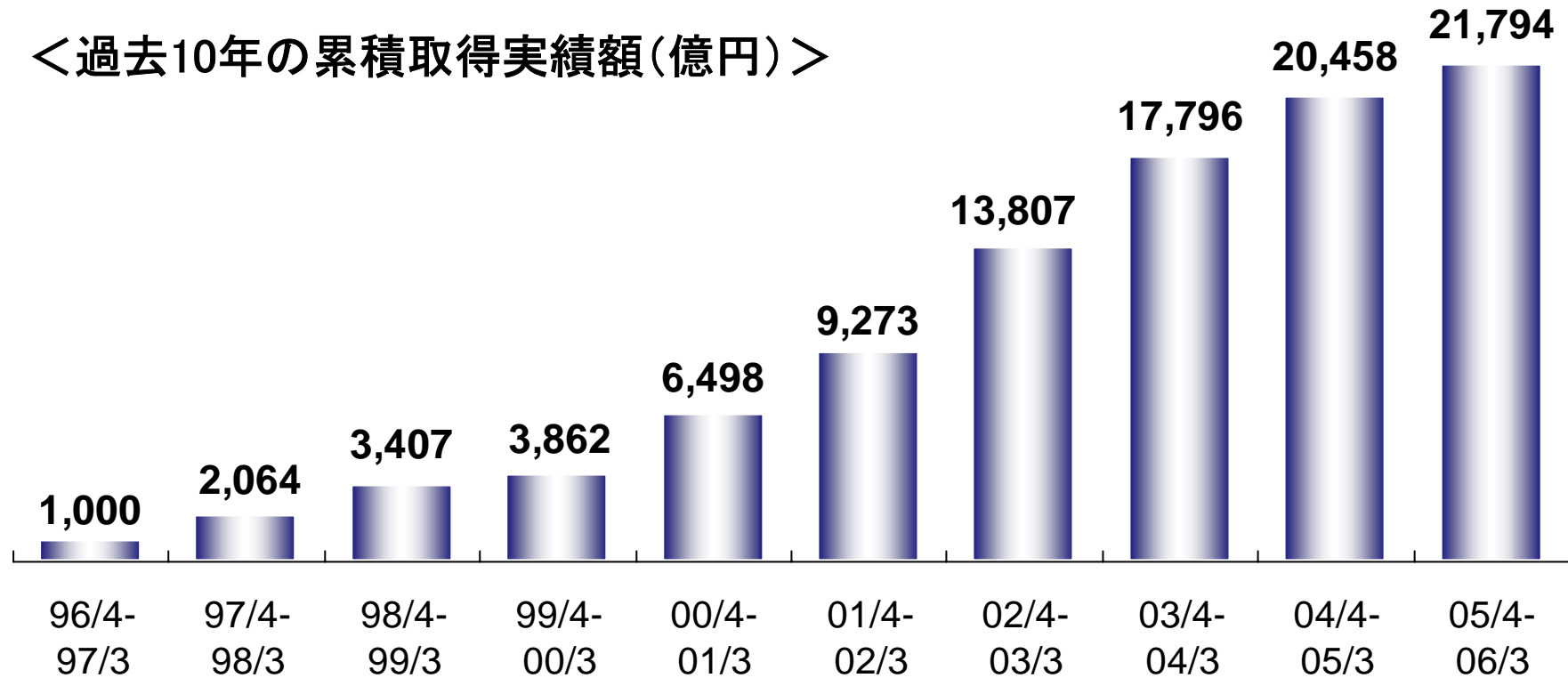
TOYOTA

# 株主還元

自己株買い →

授權枠(上限) : 2,000億円  
30百万株

<過去10年の累積取得実績額(億円)>



**TOYOTA**

専務取締役

鈴木 武

# 連結決算要約

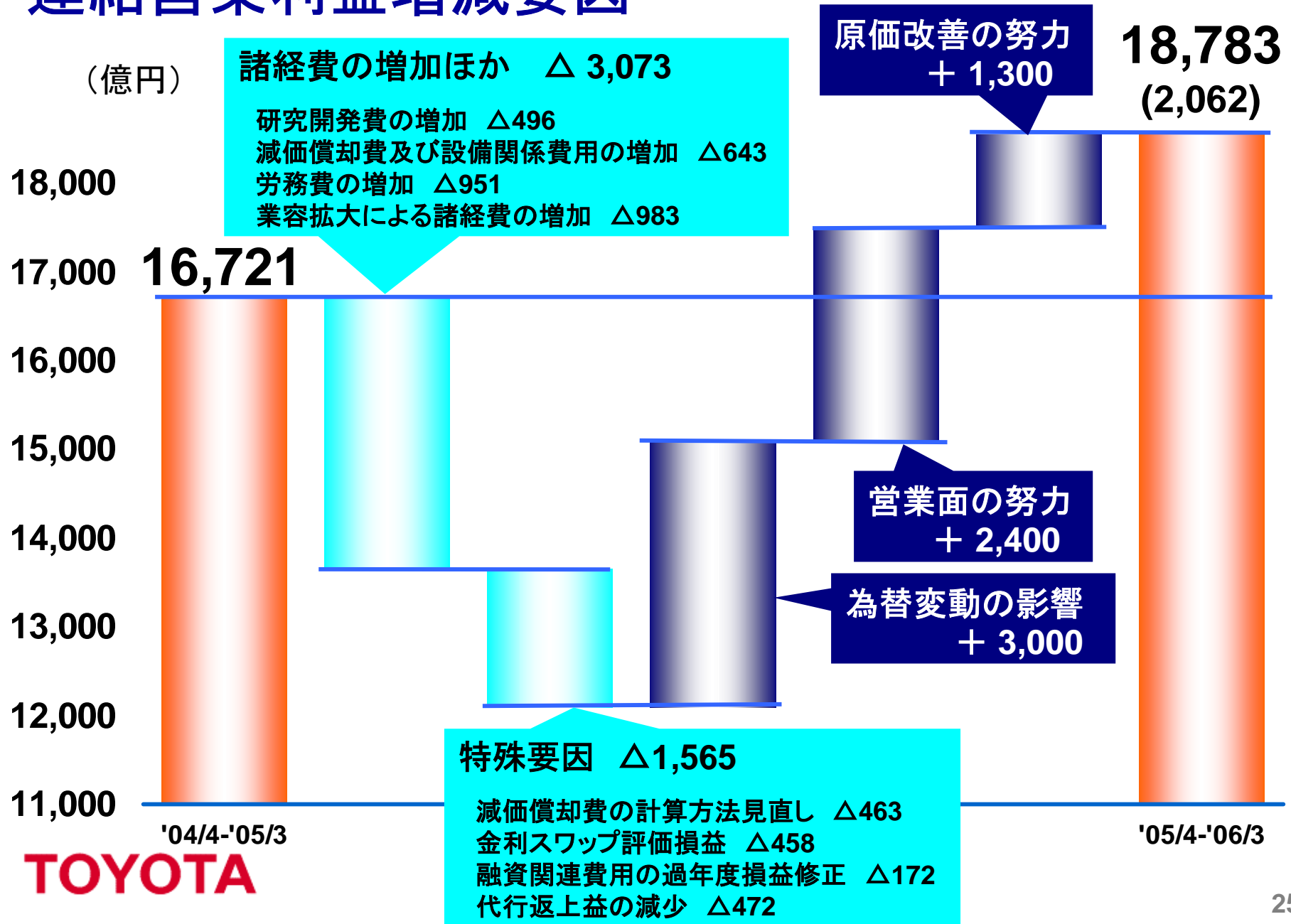
	当期	前期	増減	
	(05/4-06/3)	(04/4-05/3)	億円	%
売上高	210,369	185,515	24,854	13.4
営業利益	18,783	16,721	2,062	12.3
税金等調整前 当期純利益	*20,873	17,546	3,327	19.0
当期純利益	13,721	11,712	2,009	17.2
為替レートの	113円/ドル	108円/ドル	5円の円安	
	138円/ユーロ	135円/ユーロ	3円の円安	

**TOYOTA**

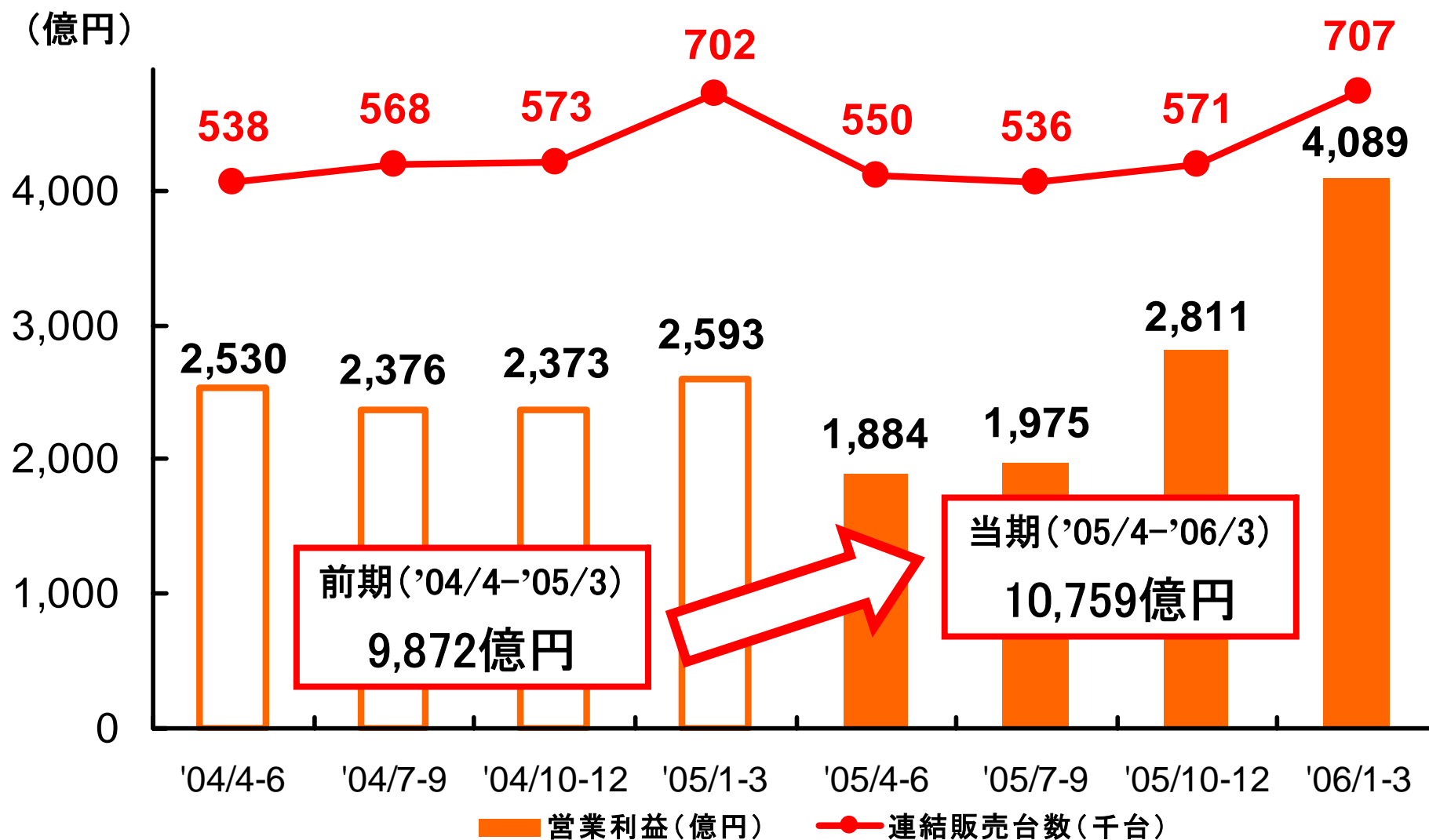
\* 三菱東京フィナンシャルグループとUFJホールディングスの合併に伴う株式交換差益(みなし売却益)1,433億円を含む



# 連結営業利益増減要因



# 所在地別営業利益：日本



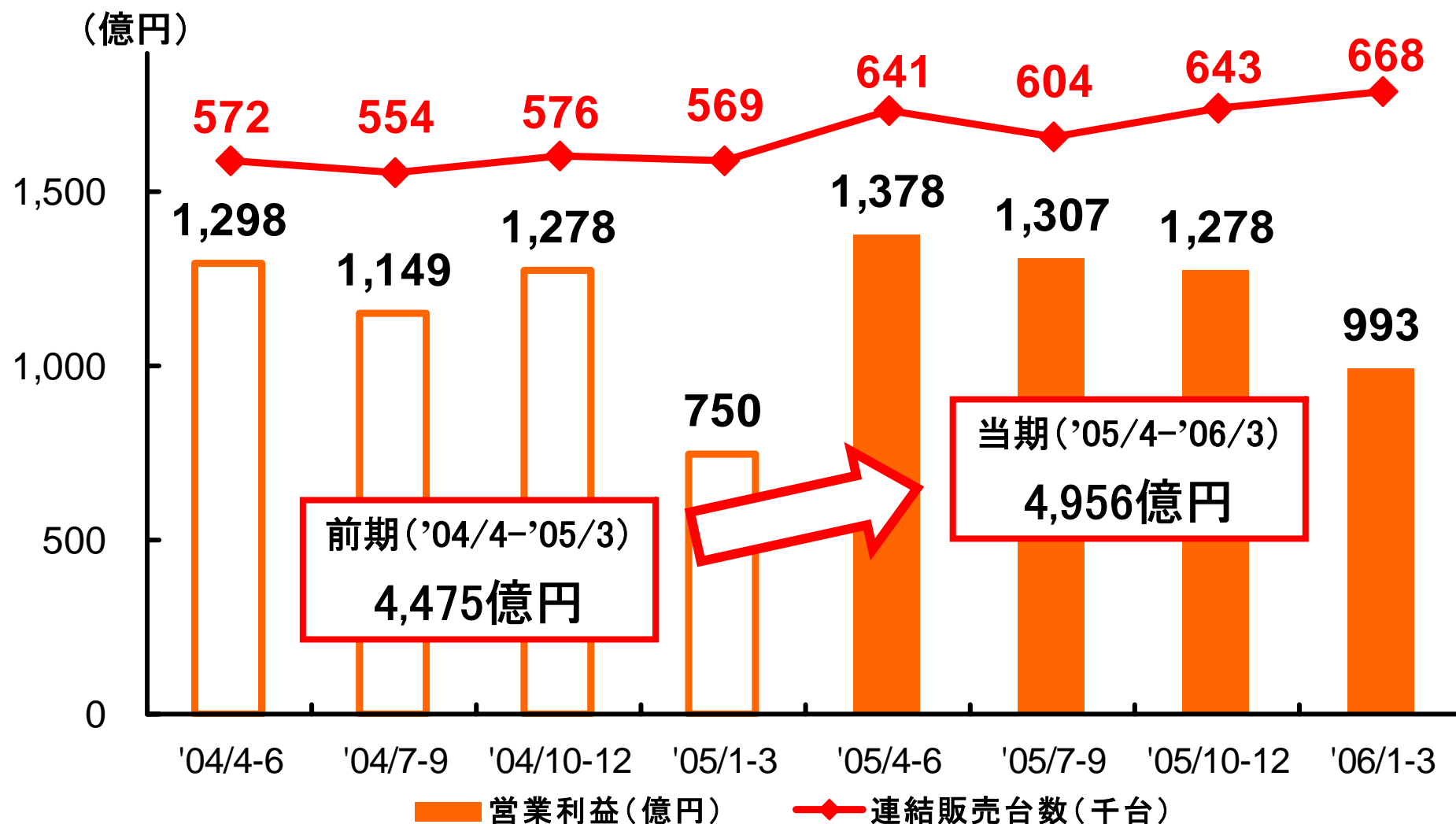
前期 ('04/4-'05/3)  
9,872億円

当期 ('05/4-'06/3)  
10,759億円

**TOYOTA**

・能増により生産台数増加、収益に貢献

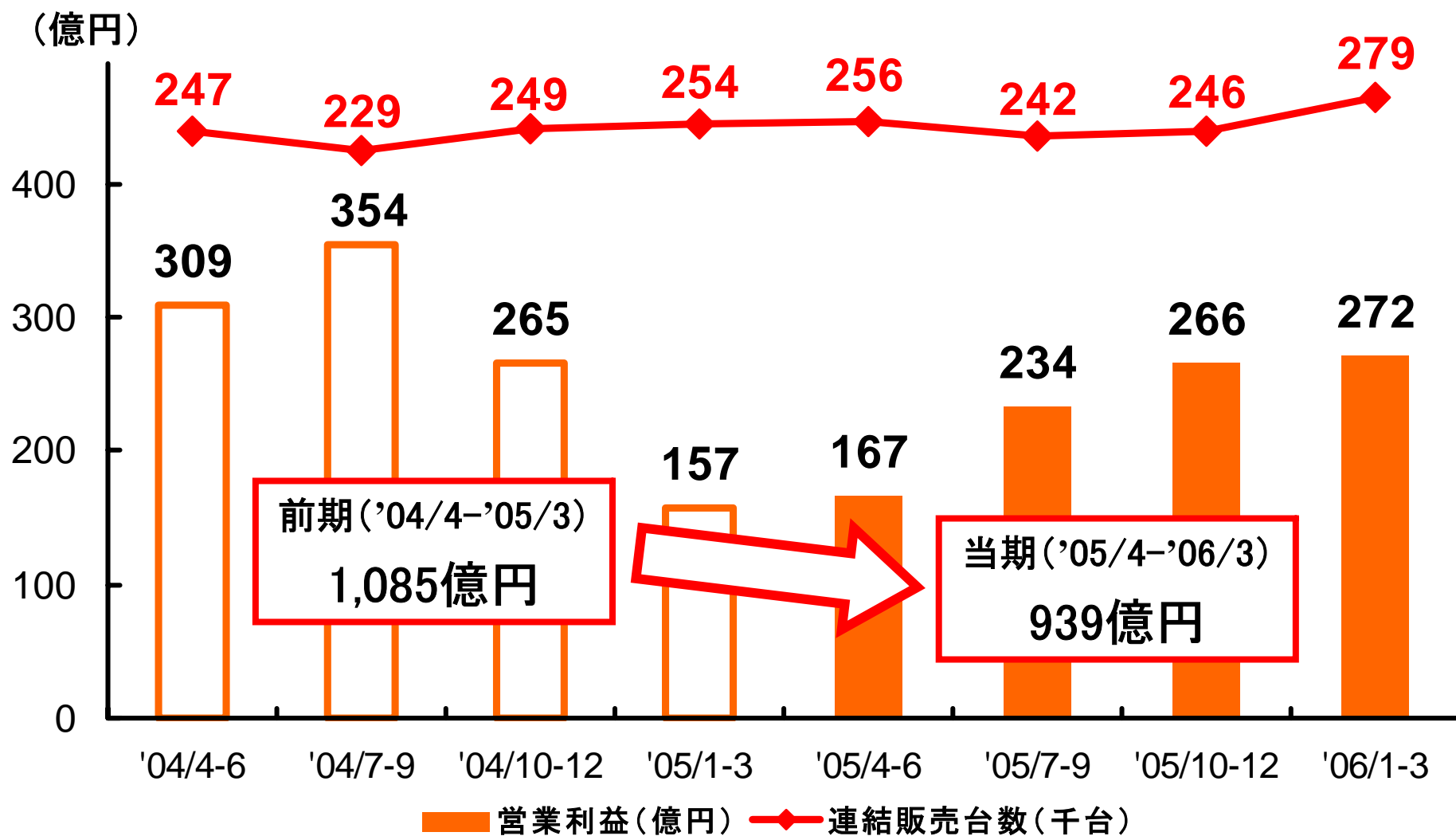
# 所在地別営業利益: 北米



**TOYOTA**

・販売台数増加、新型車やコンパクト車を中心に好調

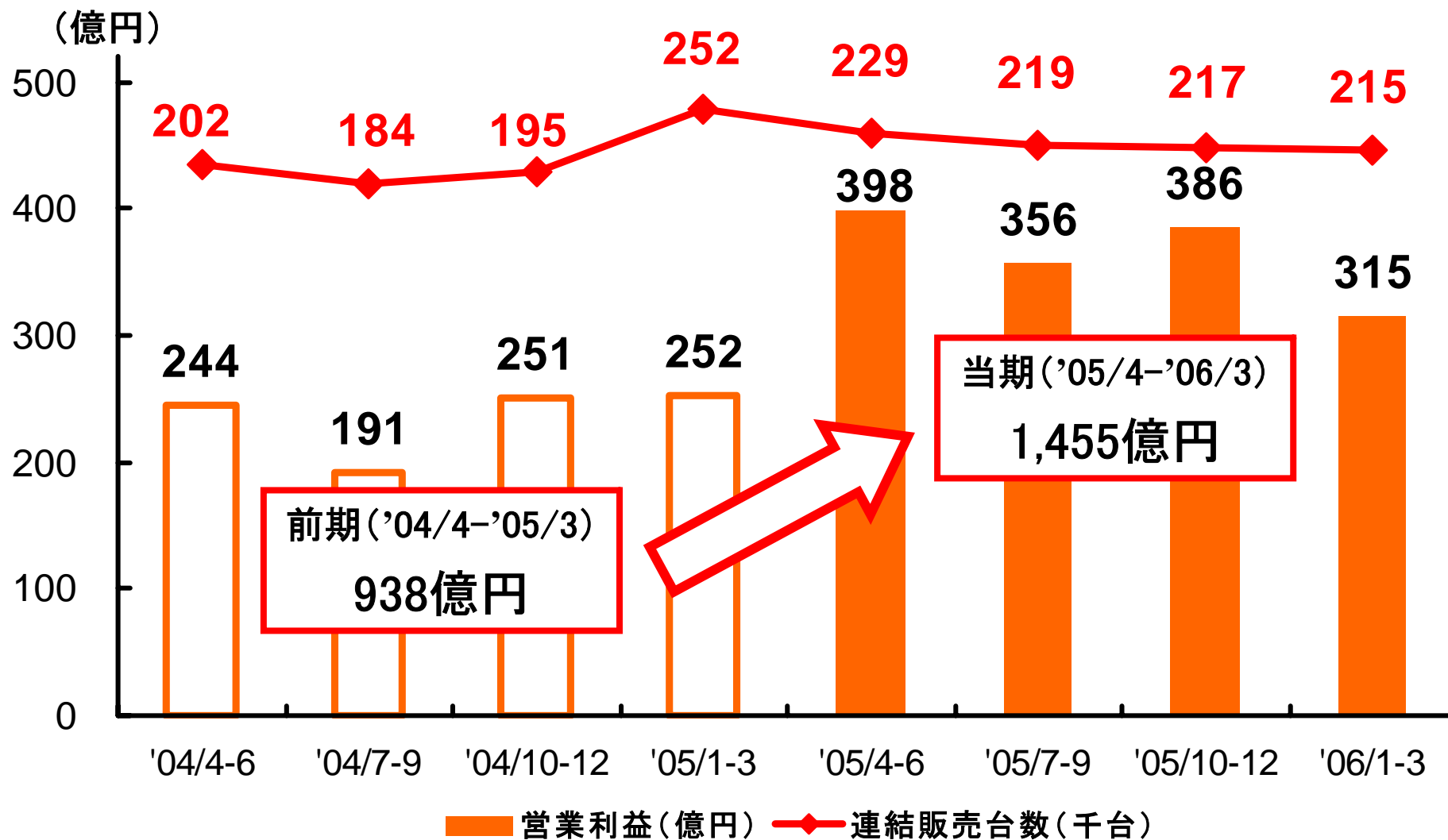
# 所在地別営業利益：欧州



**TOYOTA**

・能増投資負担があったが、新型車投入により回復基調

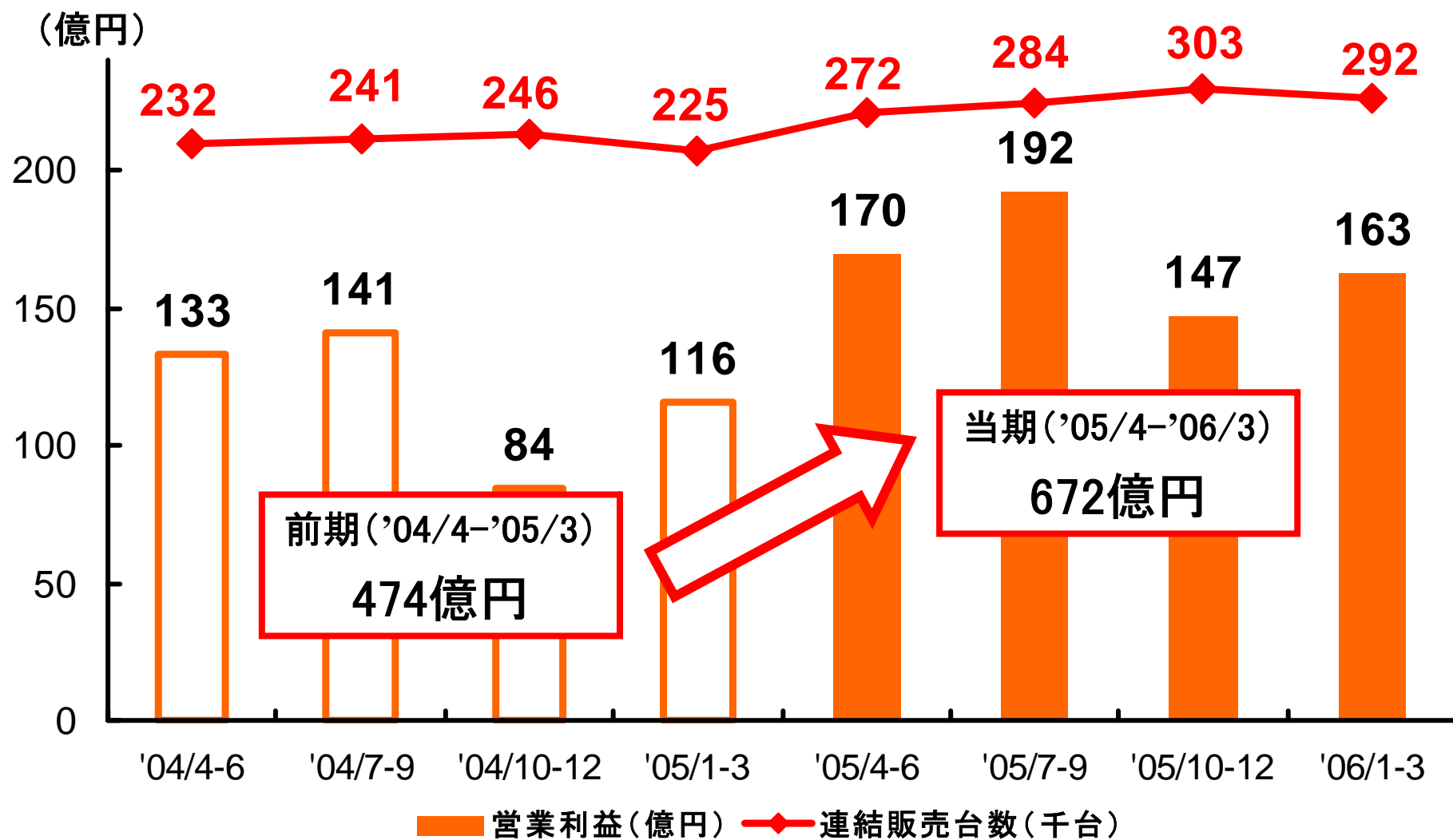
# 所在地別営業利益: アジア



**TOYOTA**

・IMV効果により、収益レベルが一段アップ

# 所在地別営業利益：その他地域 (アフリカ・オセアニア・中南米など)



前期 ('04/4-'05/3)  
474億円

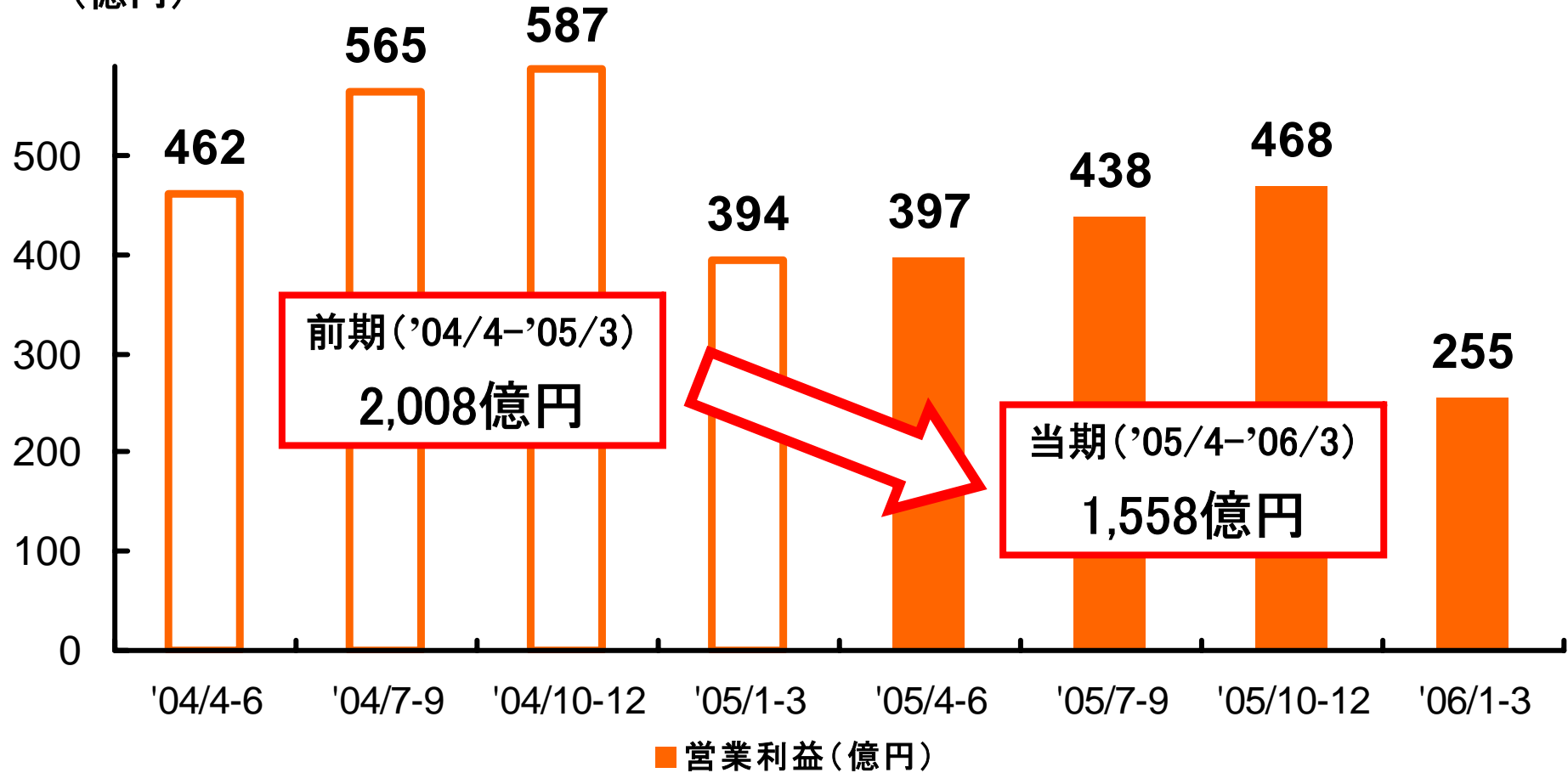
当期 ('05/4-'06/3)  
672億円

**TOYOTA**

・IMV立上げにより、収益レベルが向上

# 事業別セグメント: 金融

(億円)



前期 ('04/4-'05/3)

2,008億円

当期 ('05/4-'06/3)

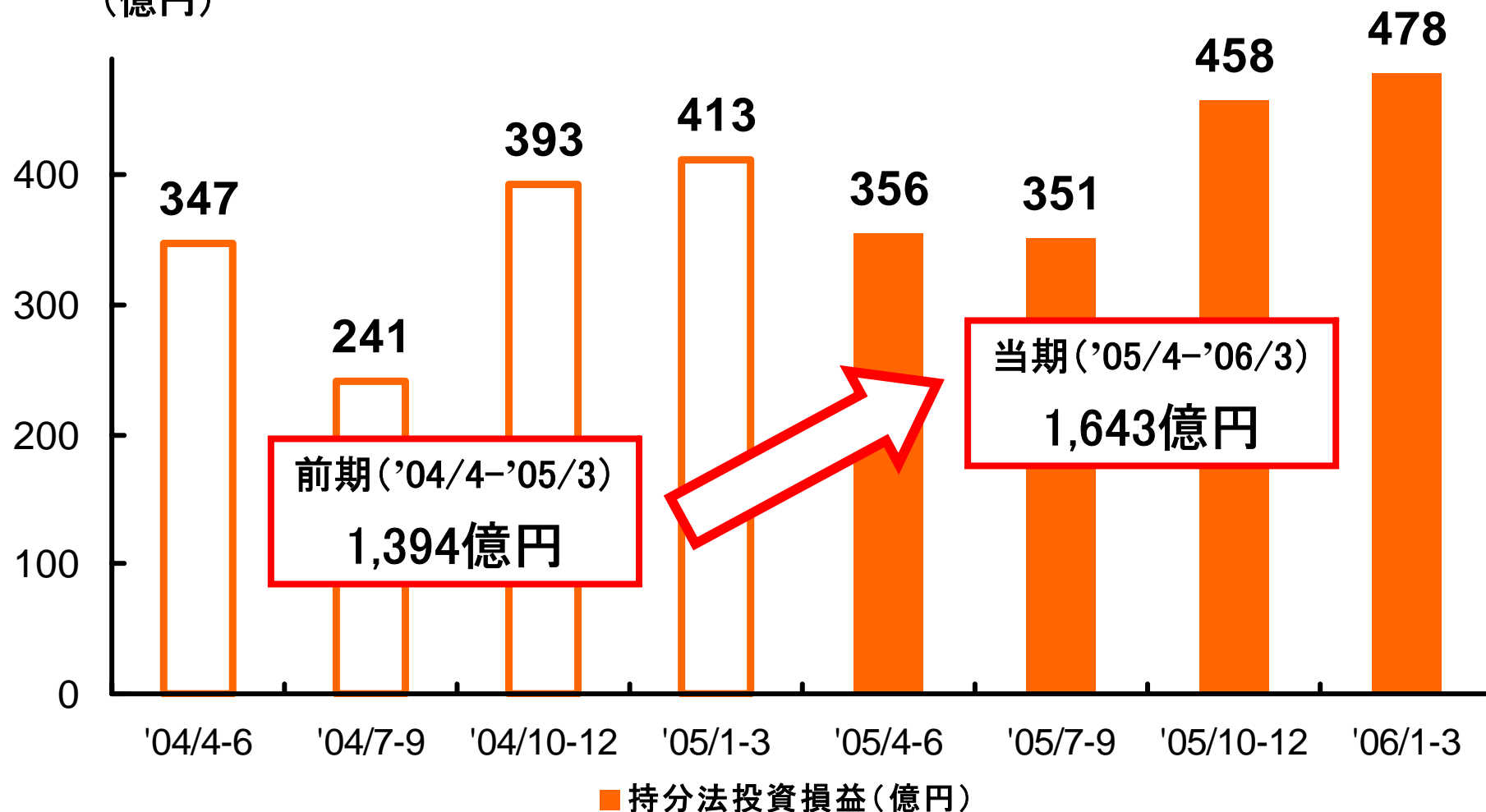
1,558億円

- ・日・米の販売金融子会社の金利スワップ取引の評価損益の影響 :  $\Delta 458$ 億円
- ・米国の販売金融子会社の過年度損益修正益の影響 :  $\Delta 172$ 億円

**TOYOTA**

# 持分法投資損益

(億円)



前期('04/4-'05/3)  
1,394億円

当期('05/4-'06/3)  
1,643億円

**TOYOTA**

・国内グループ会社、中国合弁事業体を中心に好調



## 設備投資・減価償却費・研究開発費(実績)

	設備投資 (億円)	減価償却費 (億円)	研究開発費 (億円)
連結 計	15,288 (+4,416)	8,914 (+1,156)	8,126 (+575)
日本	9,093 (+2,343)	5,689 (+ 805)	
北米	2,703 (+1,166)	1,651 (+ 121)	
欧州	1,305 (+ 578)	759 (+ 46)	
アジア	1,319 (- 30)	480 (+ 98)	
その他	868 (+ 146)	335 (+ 86)	

**TOYOTA**

( )内は'04/4-'05/3実績からの増減

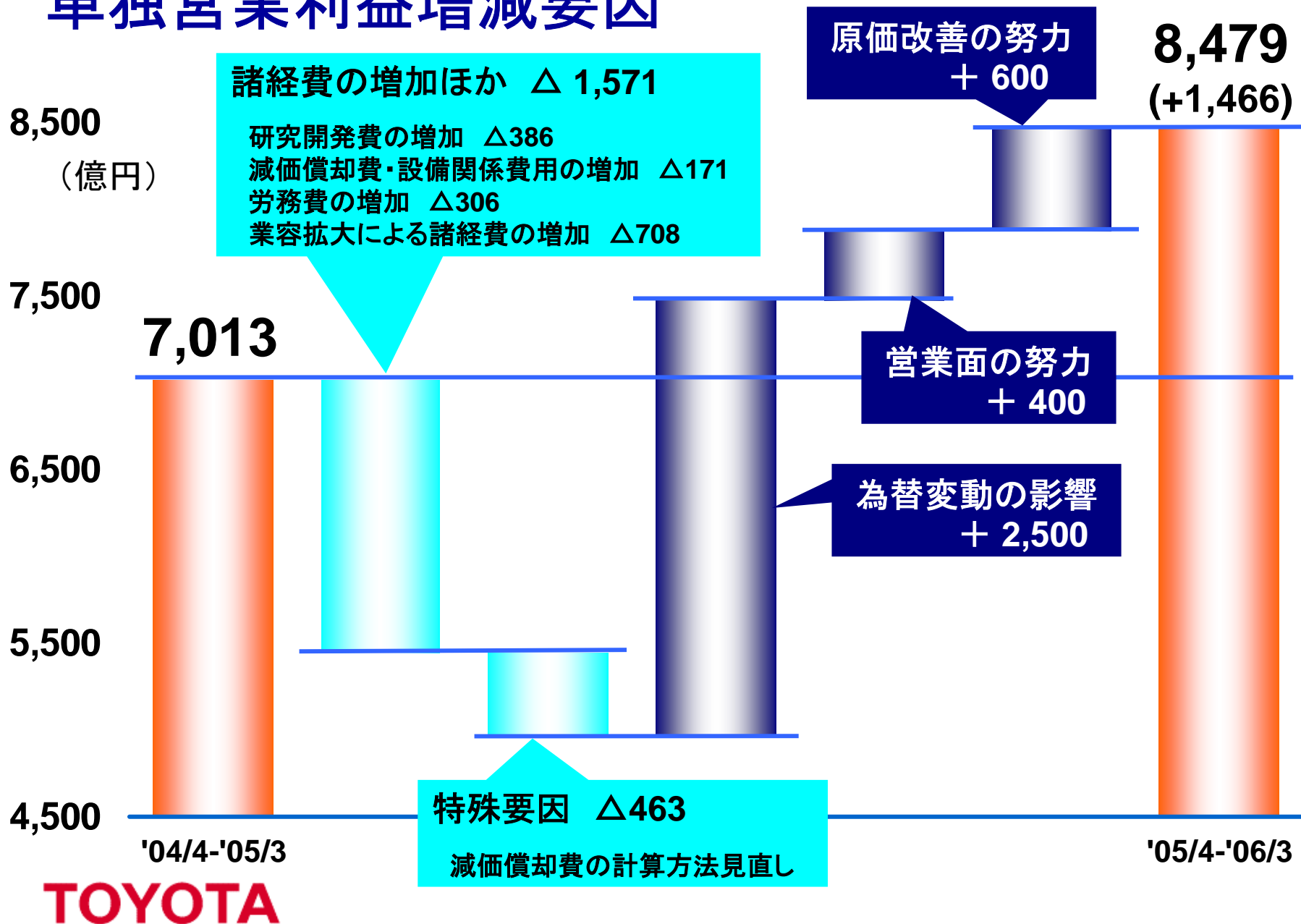
# 单独決算要約

<日本基準>

	当期 (05/4-06/3)	前期 (04/4-05/3)	増減	
	億円	億円	億円	%
売上高	101,918	92,183	9,735	10.6
営業利益	8,479	7,013	1,466	20.9
経常利益	11,047	8,562	2,485	29.0
当期純利益	7,659	5,293	2,366	44.7

**TOYOTA**

# 単独営業利益増減要因



## 来期見通し(連結決算)

	来期	当期	増減	
	(06/4-07/3)	(05/4-06/3)	億円	%
売上高	223,000	210,369	12,631	6.0
営業利益	19,000	18,783	217	1.2
税金等調整前 当期純利益	19,700	*20,873	△1,173	△5.6
当期純利益	13,100	13,721	△621	△4.5
為替レートの	110円/ドル	113円/ドル	3円の円高	
	135円/ユーロ	138円/ユーロ	3円の円高	

**TOYOTA**

\* 三菱東京フィナンシャルグループとUFJホールディングスの合併に伴う株式交換差益(みなし売却益)1,433億円を含む

## 来期見通し：設備投資・減価償却費・研究開発費

	設備投資 (億円)	減価償却費 (億円)	研究開発費 (億円)
連結 計	15,500 (+ 212)	9,300 (+ 386)	9,200 (+1,074)
日本	8,500 (- 593)	5,900 (+ 211)	
北米	3,300 (+ 597)	1,650 (- 1)	
欧州	1,300 (- 5)	800 (+ 41)	
アジア	1,350 (+ 31)	550 (+ 70)	
その他	1,050 (+ 182)	400 (+ 65)	

**TOYOTA** ( )内は'05/4-'06/3実績からの増減

# 来期見通し(单独決算)

<日本基準>

	来期 (06/4-07/3)	当期 (05/4-06/3)	増減	
	億円	億円	億円	%
売上高	110,000	101,918	8,082	7.9
営業利益	8,800	8,479	321	3.8
経常利益	12,300	11,047	1,253	11.3
当期純利益	8,500	7,659	841	11.0

**TOYOTA**

<参考資料>

来期見通し(台数等(トヨタ・レクサス))

		来期 (06/4-07/3)	当期 (05/4-06/3)
生産	国内	4,100 千台	3,863 千台
	海外	4,060	3,731
国内販売		1,780	1,769
輸出		2,350	2,126
海外現地販売		6,250	5,664
住宅		5,000 戸	4,693 戸

**TOYOTA**

# 2006年3月期 決算説明会



**TOYOTA**

**トヨタ自動車株式会社**  
**2006年5月10日**